

\*\*\*\*\*

日本看護系学会協議会ニュースレター速報

2017年10月20日配信 (2017. vol.3)

\*\*\*\*\*

「ニュースレター速報」平成29年度(2017年)第3号をお送りいたします。

本号では、平成29年度10月1日に、日本赤十字看護大学で行われました第6回理事会からの報告、及び、JANA社員団体の新理事長による各社員学会の取り組みを掲載します。

## 1. 理事会報告

1) JANA 将来構想企画について検討を始めました。

2) 平成29年度第20回日本看護系学会協議会公開シンポジウムについて検討しました。公開シンポジウムの情報は下記の通りです。詳細は決まり次第、JANA ホームページ、ニュースレター速報等でお知らせします。

テーマ：地方創生時代の看護学の変革と課題

日時：平成29年12月17日(日)16時30分～18時00分

場所：仙台国際センター 会議棟 萩

主催：一般社団法人日本看護系学会協議会

日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会

3) 災害における看護の学会連携(参加20学会)から、下記3点の情報提供がありました。

(1)「世界防災フォーラム／防災ダボス会議 @仙台2017」開催情報

日時：平成29年11月25日(土)～28日(火)

場所：仙台国際センター会議棟／東北大学 萩ホール

主催：世界防災フォーラム実行委員会

URL：<http://www.worldbosaiforum.com/overview/>

災害における看護の学会連携が提案するセッション「SFDRRに対する看護の貢献」は、11月28日 9:00～10:30に開催されます。セッションの共同参加表明は5学会からありました。各学会の災害への取り組みを発表いただき、日本の看護界の災害に関する課題について討論を行う予定です。

(2) 日本学術会議公開シンポジウム「第5回防災関係シンポジウム」開催情報

テーマ：「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」(仮案)

日時：平成29年12月20日(水)10時～17時

場所：日本学術会議講堂

主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会、防災学術連携体

URL：[www.gisa-japan.org/news/file/2017\\_9\\_rs.pdf](http://www.gisa-japan.org/news/file/2017_9_rs.pdf)

### (3) 世界災害看護学会「第5回学術集会」開催情報

日程：2018年10月17日～19日

会場：“Swiss Hotel Bremen,” Bremen, Germany, 2018

学術集会長：Dr. Stefan Görres (Professor, University of Bremen)

## 2. 社員団体「新理事長」からの取り組みの紹介

一般社団法人 日本公衆衛生看護学会

Japan Academy of Public Health Nursing

理事長 麻原きよみ先生

日本公衆衛生看護学会は、2012年に設立され5年目を迎えました。本学会の目的は、公衆衛生看護の学術的発展と研究・教育および活動の向上と推進をめざし、国民の健康増進と社会の安寧に寄与することです。現在、会員数は1600名を超え、その半数以上は保健師をはじめ、公衆衛生に携わる実践者で構成されており、実践と教育および研究の結びつきが強く、学会の目的達成のために三者が協働しているところに特徴があります。

本学会では、2014年に「公衆衛生看護・公衆衛生看護学・保健師」の用語を定義しました。また2016年には、2035年に予測される社会を見据え、学会員と社会に対して本学会が果たすべき公衆衛生看護の役割の方向性と構想を示す「公衆衛生看護のグランドデザイン」を作成し、それに基づいた活動を行っています。

今後も、公衆衛生看護の向上と社会への発信・提言を行う学会活動を継続していきたいと考えています。

一般社団法人 日本糖尿病教育・看護学会

Japan Academy of Diabetes Education and Nursing

理事長 稲垣美智子先生

本学会は昨年20周年を迎え、現在は2600人を超える会員で組織されています。一つの疾患に特化した学会として、糖尿病看護に対する社会からの期待の大きさを感じ、それに応えることのできる学会でありたいと考えております。そのために、患者とその家族のQOLの向上に寄与する知識と技術の創生・蓄積、さらにはそれを提供できる人材の育成および行政との連携、糖尿病看護が実践しやすい環境支援などを目標に活動をしています。

しかし残念ながら、糖尿病はいまだに増加傾向にあります。平成26年の患者調査による糖尿病患者数は316万6000人で過去最高となりました。未受診や未治療の人も想定すると約950万人となります。特に重症化は患者のQOLの脅かしとともに、医療費の増大につながり、ひいては治療環境を脅かしてきます。さらに、近年の超高齢社会もまた新たな課題を呈してきています。

本学会では先日の総会において、この先5年間の学会として次の5つの重点目標を挙げました。①20年間の研究成果を基盤にした糖尿病教育・看護研究の結実に向けた活動、②内閣

府「高齢社会対策の基本的なあり方等に関する検討会」を見据えた超高齢社会に向けた糖尿病教育・看護に関連した基盤整備の一助を担う取り組み、③関連学会と連携した包括的データベースに向けた糖尿病教育・看護研究の集約への取り組みの検討、④糖尿病発症の予防、重症化予防、合併症を持つ人への看護等、様々な発達段階にある人への看護など、糖尿病対策を担う人材育成と活用方法の開発と積極的推進、⑤国民全体の理解と協力を得るための啓発と情報発信方法の検討と実施です。

これらの実現のためには、関連学会をはじめとして多くの方との連携や、ご支援をいただきながら、何よりも学会員が積極的に活動する学会でありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人 日本看護科学学会  
Japanese Academy of Nursing Science  
理事長 鎌倉 やよい先生

日本看護科学学会は、「日本看護系大学協議会」を基盤として 1981 年に設立されました。1987 年には、日本学術会議への登録が認められ、2008 年に一般社団法人格を取得後、2010 年に公益社団法人となりました。本学会は設立 36 年を迎え、会員数は 8,000 名を超える学会となりました。

日本看護科学学会の目的は、「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もつて人々の健康と福祉に貢献すること」と定款に謳われています。具体的には、公益社団法人として Nursing Science の構築と発展を基盤として、国内への社会貢献、さらに国際貢献を行うことであり、主たる学会活動は、学術集会の開催、和文誌の発行、英文誌の発行です。これらを支える大きな柱として、看護学術用語の標準化、若手研究者育成、研究活動推進、国際活動推進があります。

JANS のこれまでの歴史と成果を引き継ぎ、平成 29・30 年度はもう一つの柱として「看護ケア開発・標準化」を検討したいと考えます。研究活動を推進し、若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことは非常に重要な JANS の機能です。さらに、それらの研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することが、Nursing Science を構築すると共に、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々に還元されると考えます。どうぞ、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

一般社団法人 日本がん看護学会  
Japanese Society of Cancer Nursing  
理事長 雄西智恵美先生

平成 29 年 2 月に、小松浩子先生の後任として理事長を拝命しました。どうぞよろしくお願い致します。

日本がん看護学会は、発足から 30 年が過ぎ、現在は会員数 5300 名を超える学会となっています。日本人の 2 人に 1 人ががんに罹患するといわれる時代になり、看護職のがん看護への関心も年々高くなり、がん看護の質向上にむけて学会活動も年々活発になっています。こ

れまでに「がん看護実践に強い看護師育成プログラム」の開発や「がん看護コアカリキュラム 日本版」をはじめとしたがん看護に役立つ書籍やガイドラインを発売してきました。また、「がん看護アドバンスセミナー」や「エキスパートナース育成事業」なども現在も継続して開催しています。更には、診療報酬改定に向けたがん看護分野における看護技術の提案なども積極的に行っています。

がん医療の著しい進歩により、がんに罹患しても長く生きられるようになっていますが、長期にわたる治療による心身のストレスや新しい治療による有害事象、経済的負担、就労の問題、あるいはAYA世代や希少がん患者に対する支援体制の充実などたくさんの課題や問題があります。このような課題や問題を視野にいれ、海外のがん看護学会との交流も深めながら、人々の健康と福祉に貢献できる学会活動を推進していきたいと考えています。今後ともよろしくお祈りいたします。

本号に情報を提供下さいました社員団体の理事長の皆様、ご協力をありがとうございました。他の社員団体の皆様からの情報提供もお待ちしております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

\*\*\*\*\*

日本看護系学会協議会

ニュースレター担当理事 西村ユミ（首都大学東京）